

遊便（第13号）
発行：医療法人 仁風会 八雲病院
発刊日：平成29年10月5日

巻頭言

第Ⅰ病棟 看護主任

秦 正和

近年の医療安全における大きなトピックスといえは医療事故調査制度が始まったことでしょうか。

医療事故調査制度は、医療事故(当該病院等に勤務する医療従事者が提供した医療に起因し、又は起因すると疑われる死亡について、その死亡を予期しなかったもの)が発生した医療機関において院内調査を行い、その調査報告を民間の第三者機関(医療事故調査・支援センター)が収集・分析することで再発防止につなげるための医療事故に係る調査の仕組み等を、医療法に位置づけ医療の安全を確保するものとして、一昨年の十月に施行されました。

医療事故調査・支援センターである日本医療安全調査機構の現況報告(五月)によると、施行後より累計三一九件の相談が持ち込まれ、六二四件の医療事故報告があったと公表されています。診療科別の医療事故報告件数では、外科(一一四件)、内科(七五件)、消化器科(五五件)、整形外科(四九件)、その他の診療科においても、いずれも二〇件〜四〇件程度となっています。精神科では二一件の報告があり、精神科においても決して医療事故は無縁ではないと言えるでしょう。そのことから、われわれの病院で

も、医療事故は対岸の火事ではなく、起こり得ることが十分に考えられます。

当院では、毎年、医療安全管理者と委員会が中心となり職員研修を企画実施しています。最近の研修は、各部署で報告されたインシデント(重大事故に繋がる恐れのある事例)の傾向をグループに分かれて考えたり、KYT(危険予知トレーニング)、RCA(根本原因分析)の一工程の体験などをしました。

医療安全というとなんだか重く難しいイメージを抱きがちですが、医療安全について、職員が興味、関心を持てるよう、難しい研修内容にはせず、必ず参加型の研修を行っています。その甲斐あってか、職員一人一人の安全に対する意識は、年々高まってきているように感じています。

私も医療安全管理者の一人として、より安全な医療を患者さんに提供できるよう励んでいきたいと思っています。

遊便第十三号…もくじ

巻頭言	1
特集 病院機能 訪問看護	2
クラブ活動報告	2
新Dr紹介	3
たまごさんからの お便り	4
院内研修報告	4
地域連携を考える	5
法人アクセス	6

病院 機能

利用される方の気持ちに寄り添いながら ～訪問看護～

訪問看護とは、病気や障がいを持った人が住み慣れた地域やご家庭で、その人らしく療養生活を送れるように、看護師等が生活の場へ訪問し、療養生活を支援するサービスです。

八雲病院では、当院を退院された方で外来通院中の方を対象とし、地域や社会で安心して生活することができるように、訪問看護スタッフが直接ご自宅等へ訪問し、相談や必要な支援などを行っています。

主な相談、支援内容

- 服薬、症状管理指導
- 対人関係（家族、友人、近隣、職場、デイケア等）の相談
- 日常生活（食事、排泄、睡眠、清潔、金銭管理、など）の相談
- 社会資源（金融機関、公共施設、行政サービスなど）の利用の仕方
- 健康相談
- 家族への支援
- 主治医、外来、デイケア、他機関との連携

申込みについて

当院の訪問看護は、当院通院者のみご利用できます。

外来通院時に主治医にご相談していただくこととしています。

患者さんの笑顔が我々の励み

当院の訪問看護の活動は、昭和63年の精神保健法施行後間もない頃からスタートし、退院後の再発防止、治療の継続、症状の安定など地域で生活を続けるうえで大きな役割を担っています。

訪問看護スタッフは、通院患者さんのご自宅というプライベートな空間に迎え入れてくださることに感謝しながらお伺いさせていただいております。病気のことだけでなく、日常生活で起こる様々なことに対し、利用される方の気持ちに寄り添い、ご本人のペースを大切にしながら共に考え、見守ることを心がけ

ています。主治医をはじめ、医療スタッフのチームワークを大切にし、必要に応じ関係機関と連携しています。

住み慣れた場所、穏やかな暮らしの中で見せてくださる笑顔は、担当者にとって何よりの喜びであり励みとなっています。

（訪問看護スタッフ）



クラブ活動紹介

八雲病院内には、職員有志からなるランニングクラブがあります。チーム名は「ふぁんらん」。名前の通り“楽しく、健康的に走る（歩く）”ことをモットーに結成され、ひっそりとゆる～くマイペースに活動しています。結成から4年経ち、8人からスタートしたランニングクラブは現在部員数も13人に増えました。

主な活動内容は、個人での自主トレや大会参加、親睦会です。大会前にはメンバーで集まり、仕事を終えてから運動公園や穴道湖周辺、病院周辺、時にはトレーニングルームに行き練習に励む事もあります。最近では、浜乃木から玉造温泉までLSD（長い距離をゆっくり走る）をしながら、途中のコン

ピニでアイスを食べ、玉造でランチに蕎麦をすすり、足湯や神社の参拝をした事も。病院を出発し、武者行列を見ながら最後は松江城をゴールにゆっくりランした時とても楽しかったです。

年に数回不定期で行う、大会参加の慰労を兼ねた親睦会や飲み会も行っており、それを楽しみに日々各自でトレーニングに励んでいます。

私達ランクラブは、今後も楽しくゆる～く活動を続けて行こうと思っています。この記事を読まれて、走ることや歩くことに興味関心を持たれた方は、是非外に出てみてはいかがでしょうか。

（川角）

新Dr紹介

王紅欣先生

私は王紅欣と申します。中国から参りました。出身は北京ですが、大学は内陸にある山西医科大学でした。若いうちに他所の世界を見てみたい気持ちがあって、1997年に義理の兄（日本人）のおかげで日本に参りました。

2年間の日本語を勉強してから、鳥取大学精神医学教室川原隆造教授の下で4年間の心理治療を勉強しました。大学院卒業後、帰国し、精神科医として無錫精神衛生中心（上海の近く）で、7年間働きました。

2011年、日本の友達の招きを受けて、再び日本に参りました。元々、日本文化と社会の雰囲気が好きで、日本で医師として働きたいという思いもありました。それと同時に、鳥取市にある渡辺病院の理事長先生の支援（奨学金）を受けて、受験勉強をし始めました。

日本の医師になるまで、日本の先生達や友人達に大変お世話になり、日本は私の第二の故郷と実感しています。これからも、皆様と一緒に頑張りますので、よろしくお願いいたします。



仁風会では、新たに鳥取医大からのDrをお迎えしました。この場を借りて、王先生、国分先生のご紹介をさせていただきます。

国分一男先生

皆さま初めまして。平成29年4月より週に1度、非常勤として勤務しております国分一男と申します。簡単ですが自己紹介いたします。

高校卒業まで東京にて過ごした後、鳥取大学医学部生命科学科に進学し初めて山陰の地に立ちました。大学院修士課程を修了後、臨床の道を目指して鳥取大学医学部医学科に編入しました。卒業後は松江市立病院にて初期研修を行い、現在鳥取大学医学部精神科に所属しております。

よく精神科を選んだ理由を聞かれるのですが、このように遠回りをして医師となったこともあり、病気だけでなく社会背景も含め多様な視点から総合的に患者さんと関わるというところに魅力を感じたのが一番だと思います。

といいましても、まだまだ若輩者であり、周囲の方々の助けをお借りしながら日々を送っております。八雲病院の一員として少しでも地域の皆様のお役に立てるよう、精一杯務めてまいりますので、今後とも宜しくお願い申し上げます。

作業療法 作品コーナー



作業療法棟、II病棟、重度認知症デイケアで、壁一面の大作を皆で協力して仕上げました。

作業療法棟



II病棟作業療法



重度認知症デイケア八雲





たまごさんからのお願い ～地域で学ぶ看護学生さん～

7月13、21、27日、松江高等看護学院の看護学生さんが3人、7月19・20日には松江総合医療専門学校から6人、8月16日、島根県立大学から6人の学生さんが来所されました。地域活動支援センター ビ・フレンドリング、就労継続B型事業所八雲会、指定障害福祉サービス事業所コスモス、精神科デイケアたんぽぽといった地域の社会資源を見学していただき、各施設職員から説明を聞いた後、実際に各所を利用

している利用者の方たちと一緒に作業やレクリエーションを楽しんで頂きながら、各所の特徴や機能を学んで頂く機会となりました。

それぞれの学生さんたちに将来進みたいと考えている診療科をうかがうと、緩和ケア、急性期、整形外科、小児科など様々ですが、実習をとおして感じられた意見、感想は、下記のとおりです。

「チームワークが強く、何事にも一生懸命に取り組んでおられ、自分が今後病院に勤務した際もチー

ムワークが大切であると気付かされました」「同じ病気を抱える利用者さんでも、生活の場、社会復帰に向けて、看護師として観察する視点が多職種と異なると感じた」「どの診療科に勤めたとしても、精神疾患のある患者さんと関わることがあると思うが、今回の実習を通して精神科の患者さんへの理解が深まり、寄り添う事が大切であるということを感じた」「困っている人に手を差し伸ばしてあげることができる看護師を目指したいと感じるようになった」「しっかり“待つこと”の大切さを学ぶことができました。ありがとうございました」 (森脇)

院内研修報告

虐待防止研修

何気ない言動が虐待に繋がる

5月に虐待防止を目的とした法人内研修を実施しました。内容としては、虐待防止法の解説をはじめ、実際に福祉施設で発生して報道番組でも取り上げられた虐待事案や、全国調査から見えてくる虐待の傾向等も紹介しました。

参加した職員からは、「普段から気を付けているものの、何気ない言動が虐待に繋がる恐れがあると分かった」「嫌がる事は虐待に該当する可能性があるが、関わらずに放っておくことも虐待に繋がる可能性があり、支援における難しさやジレンマを感じる」といった、普段の業務をふり返っての感想が多く聞かれました。

虐待は権利侵害そのものであり、医療や福祉といった対人援助の業務において絶対に起きてはならないことです。私達職員は、自らの言動を今一度ふりかえり、適切な支援が行えているのかを確認する必要がありますと強く感じました。

(荒内)

ファシリテーター研修

参加者の力を引き出す

皆さんはファシリテーションという言葉をお聞きになったことがあるでしょうか。翻訳すると「その場を促進すること」です。

ファシリテーションとは、会議やグループワークなどの司会進行をする役のことを指しますが、ただ司会進行をするのではなく、「いかにその場にいる参加者の多くから意見などを引き出し、全員納得のいく合意共有というゴールに時間内でたどり着くための技術」です。その技術をフル活用して進行する人のことをファシリテーターと言います。

昨年度から本法人内でこのファシリテーション技術を浸透させ、多くのスタッフがこの技術を身につけてもらえることを願い、研修会を開催しています。今年度も出来るだけ多くのスタッフが参加出来るようにするために、開催日を3回に分けて実施しました。

この技術を学ぶことで、職場での活用は当然ですが、家庭や友人関係といったプライベート場面で

も活用できることを演習も交えながら説明しました。来年度も継続していきたいと考えています。

(森脇)



地域連携を 考える

2017サマーコンサート & 梶村健三氏絵画展

8月4日、午後から、ピ・フレンディング交流ホールにて第21回目となるサマーコンサートを行い、約100名の皆さんが来場されました。

当日は音楽グループつくしさん、青戸美嗣子さん、デイケアたんぼぼの有志の皆さん

など5組による楽曲演奏のほか、作業所の物品販売、コンサートのコラボ企画として梶村健三氏の絵画、初めての企画として日頃からアート作品の創作に熱心な方の作品を同時展示する共同アートギャラリー展も行いました。

出演者で初参加の方もあり、少しずつ新しい輪の拡がりもみられています。

次回はクリスマスコンサートとして12月8日13時～15時に開催予定ですので、よろしかったら足をお運びください。お待ちしております。(貝谷)



初・共同アートギャラリー展開催



歌声を披露されるつくしの皆さん



梶村健三氏と絵画『出漁』

家族教室「家族の輪・学びの場」 ～癒しとは、共感しやすくなるコツは～

「どうしたら、あの子が自立できるようになるのかしら？」

こうしたお悩みをお持ちのご家族がいらっしゃるのではないのでしょうか。この「びふれ版家族の輪・学びの場」は、精神障がい者の方のご家族が、ご本人の回復につながる接し方を学ぶ「学び場（家族教室）」です。

ピ・フレンディングで月に1回開催している家族教室「家族の輪・学びの場」。今年度上半期は、家族間のコミュニケーションで意識したいポイントを学ぶことを目的に開催しています。

8月は癒しや共感力がテーマであり、自分にとっての癒しは何かということ、共感しやすくなるためのコツを学びました。

参加したご家族の方からは、最近家庭で意識して取り組んでいることや、これまでの体験をふり返ったことで気付きがあったという意見も出されました。

当教室は家族同士の交流の場にもなっており、今後多くの方に参加して頂けるように取り組んでいきたいと思えます。

(荒内)

今月のおすすめの一冊

天国までの100マイル
浅田次郎：著（朝日文庫）
2000年初版 税込514円

今回のおすすめの一冊は、浅田次郎さんの「天国までの100マイル」です。

どん底の生活をしてきた主人公が、病気の母親の治療のため、母親を車に乗せ、100マイルの道を走る。主人公を取り巻く色々な人生が交差して、読んでいくうちに引き込まれていきます。ハンカチ必須のラストは、ぜひご自分の目でご確認ください。

(浜岡)





わたくしたちは心の声を大事にします
わたくしたちは医療水準の向上に努めます

八雲病院

医療法人 仁風会

○八雲病院（外来診療時間午前中のみ）

平日8：30—12：30／土 8：30—12：30

休診日…日曜日、祝日、お盆、年末年始

松江市大庭町1460-3

電話(0852)23-3456(代表)

FAX(0852)23-3495

・デイケアたんぼぼ（精神科デイケア）

※お問い合わせは代表まで

月曜日—金曜日 午前9：30—午後3：30

・デイケア八雲（重度認知症デイケア）

※お問い合わせは代表まで

月曜日—金曜日 午前9：00—午後3：40

○コスモス（自立訓練【生活訓練】事業所）

松江市大庭町1459-1

電話(0852)23-3360

FAX(0852)23-3370

○ピ・フレンドリング（地域活動支援センター・相談支援事業所）

松江市大庭町1461-3

電話(0852)23-4111

FAX(0852)23-4112

○雲陽の里（認知症グループホーム・介護保険）

松江市大庭町1459-1

電話(0852)23-3700

○居宅介護支援事業所 医療法人 仁風会 八雲病院

ご意見箱

広報誌「遊便」に対するご意見・感想などございましたら、ぜひ下記までお寄せいただくと喜びます。今後とも医療法人仁風会、広報誌「遊便」共々よろしくごお願い致します。

〒690-0033

松江市大庭町1460-3

(医)仁風会 広報委員会

ホームページのご案内

当法人の各種サービスについてホームページで紹介しております。スマートフォンにも対応しています。ぜひご覧ください。

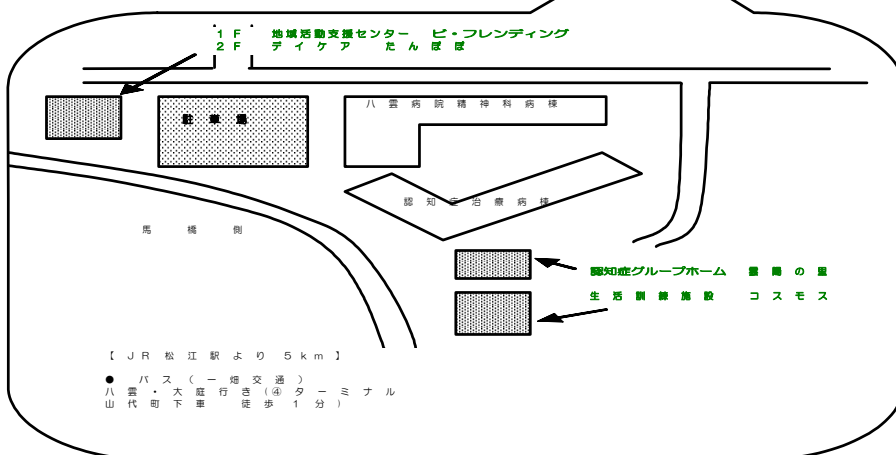
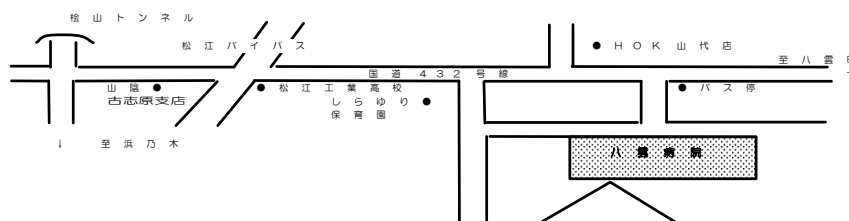
アドレス

<http://www.yakumohp.net/>



お知らせ

【ご案内】



【JR松江駅より5km】

●バス（一畑交通）
八雲・大庭行き（④ターミナル
山代町下車 徒歩1分）

編集後記

広報誌の編集に関わらせていただいている、早五年が経ちます。毎回秋の号の編集を担当するのですが、編集の度に既知のつもりでいるつもりの法人についても、新たな発見があったり、再認識することがあります。より分かりやすい紙面をこれから目指していこうと思います。

(浜岡)